

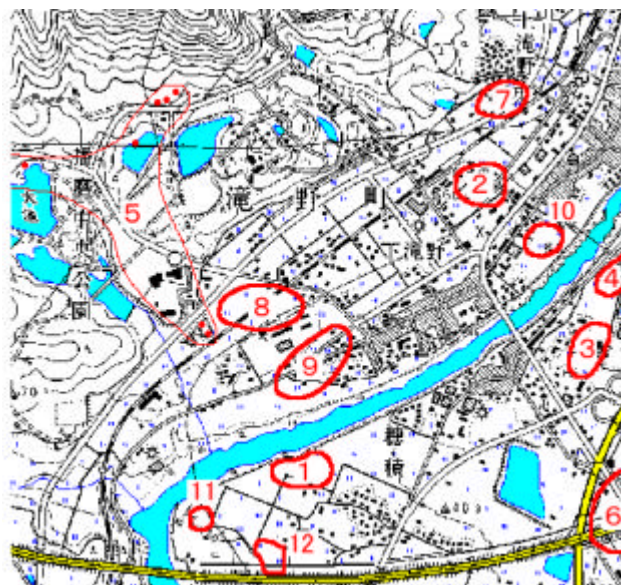
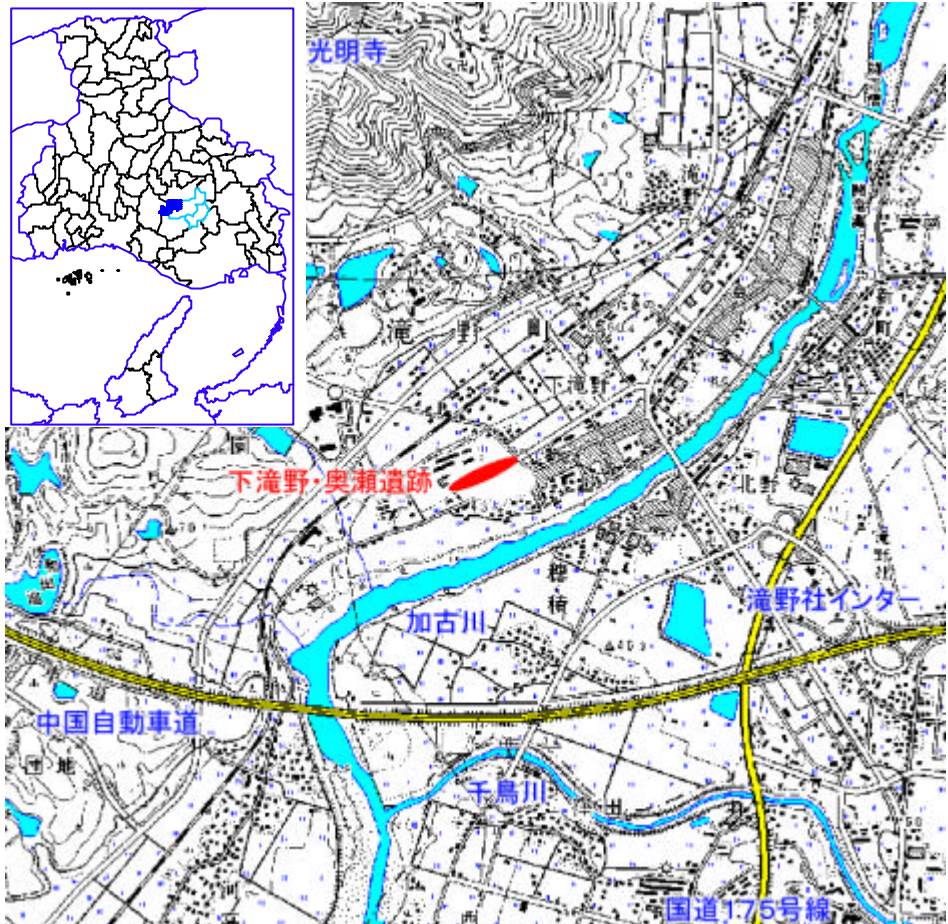
11 しもたきの おくぜ 下滝野・奥瀬遺跡

位置と環境

地理的歴史的概観

下滝野・奥瀬遺跡の所在する加東郡滝野町は人口11,487人（2月現在）、町面積19.77Km²の、加古川中流域に広がる田園地帯である。町の北部には標高250m-300m強の中国山地の末端部にあたる山々があり、南には青野ヶ原台地や嬉野台地と呼ばれる標高90-100mの更新世段丘が広がりを見せている。これらの中央部には加古川が完新世の堆積平野（40-50m）を作り出している。

東西には西から中国山地を貫く中国自動車道、また、南接する小野市の南に敷設されている山陽自動車道により海浜部への東西アクセスも便利になった。兵庫県内の各地にも2時間以内で走破でき、大阪や阪神間への通勤圏内ともなっている。



- 1 穂積・高町遺跡
- 2 上滝野・三反郷遺跡
- 3 北野・神田木遺跡
- 4 新町・黒深遺跡
- 5 下ノ山古墳群
- 6 上中・溝ノ内遺跡
- 7 上滝野・宮ノ前遺跡
- 8 下滝野・下ノ山遺跡
- 9 下滝野・奥瀬遺跡
- 10 上滝野・清蔵寺遺跡
- 11 穂積・西野々遺跡
- 12 穂積陣屋址

国土地理院数値地図使用

遺跡のある下滝野は加古川西岸の標高46mの平野部に立地する。遺跡の約200m北には平安時代後期の三面庇建物跡等が検出された下滝野・下ノ山遺跡があり、その背後に連なる丘陵部には古墳時代後期の下ノ山古墳群が点在し、北方の五峰山山麓（標高258.4m）には奈良時代～平安時代の窯跡である東播北部古窯址群の仁王谷支群などが確認されている。

調査の概要

2次調査（1994年度）

調査期間 1995年1月9日～1月13日

概要 道路拡張部分を対象として実施した。幅約5m、長さ約86.0m、面積約394m²である。

3次調査（1995年度）

調査期間 1995年11月13日～11月17日

概要 道路拡張部分を対象として実施した。範囲は幅3.3m、長さ57.0m、面積約165m²である。

遺構の概要

2次調査区（以下、2区とする。）

調査区の北東部に溝状遺構（SD-02）とピット数基が散見する程度である。

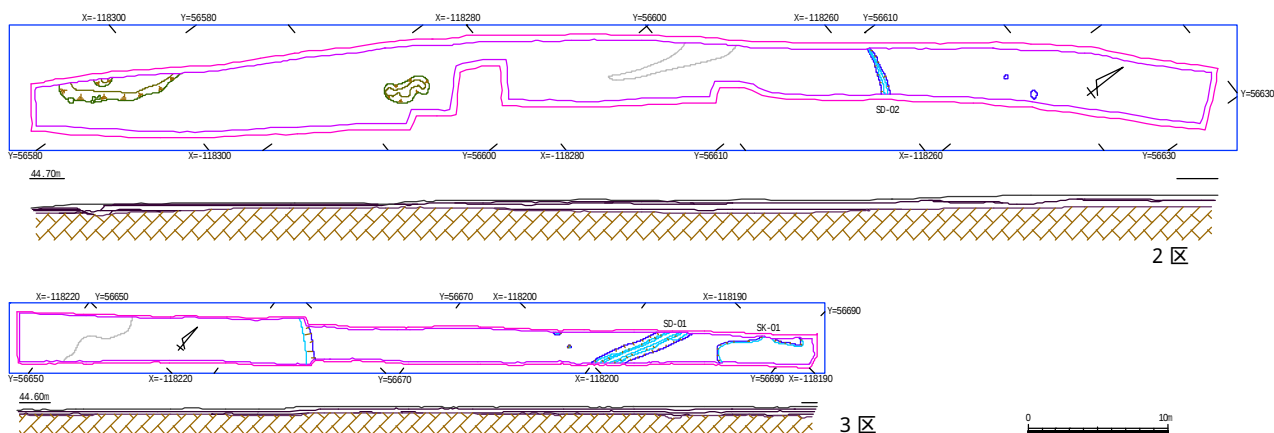
SD-02 幅約50cm、深さ5cm程度の溝でN-67°-W方向でやや彎曲気味に振る。

3次調査区（以下、3区とする。）

調査区の東半部分で溝1条（SD-01）と土壇（SK-01）を検出した。

SD-01 幅約1.2m、深さ50cmの溝で、座標北からはN-25°-Eである。溝からは平安時代後半に属すると思われる須恵器の椀と捏鉢の底部が出土している。

SK-01 幅約7m、深さ約13cmの不整形な窪み状の遺構で東方に広がりがみられる。



遺構配置図

下滝野・奥瀬遺跡



2次 航空写真(上空より)



2次 航空写真(西より)



景（西より）	景（東より）
遠景（西より）	遠景（東より）
遠景（南より）	2次調査

下滝野・奥瀬遺跡



3次 景(東より)



3次 景(西より)



3次 SD-01(南より)

遺物の概要

遺物は土器が約300片、鉄製品 1 点、サヌカイト片 1 点が出土している。整理作業が終了した時点で図化・写真等に供したものが 4 1 点、コンテナケ - スに 4 箱、資料化ができなかった細片は 1 箱分である。土器はその約 7 割が須恵器、3 割が土師器と極微量に陶器類が含まれる構成である。以下、種別ごとに概要を述べていく。

土 器

須恵器 8 割強が平安時代後期から鎌倉時代頃、あとの 2 割程度は 8 世紀末から 9 世紀前半頃に属するものと思われ、少量 7 世紀代の坏が混じる。

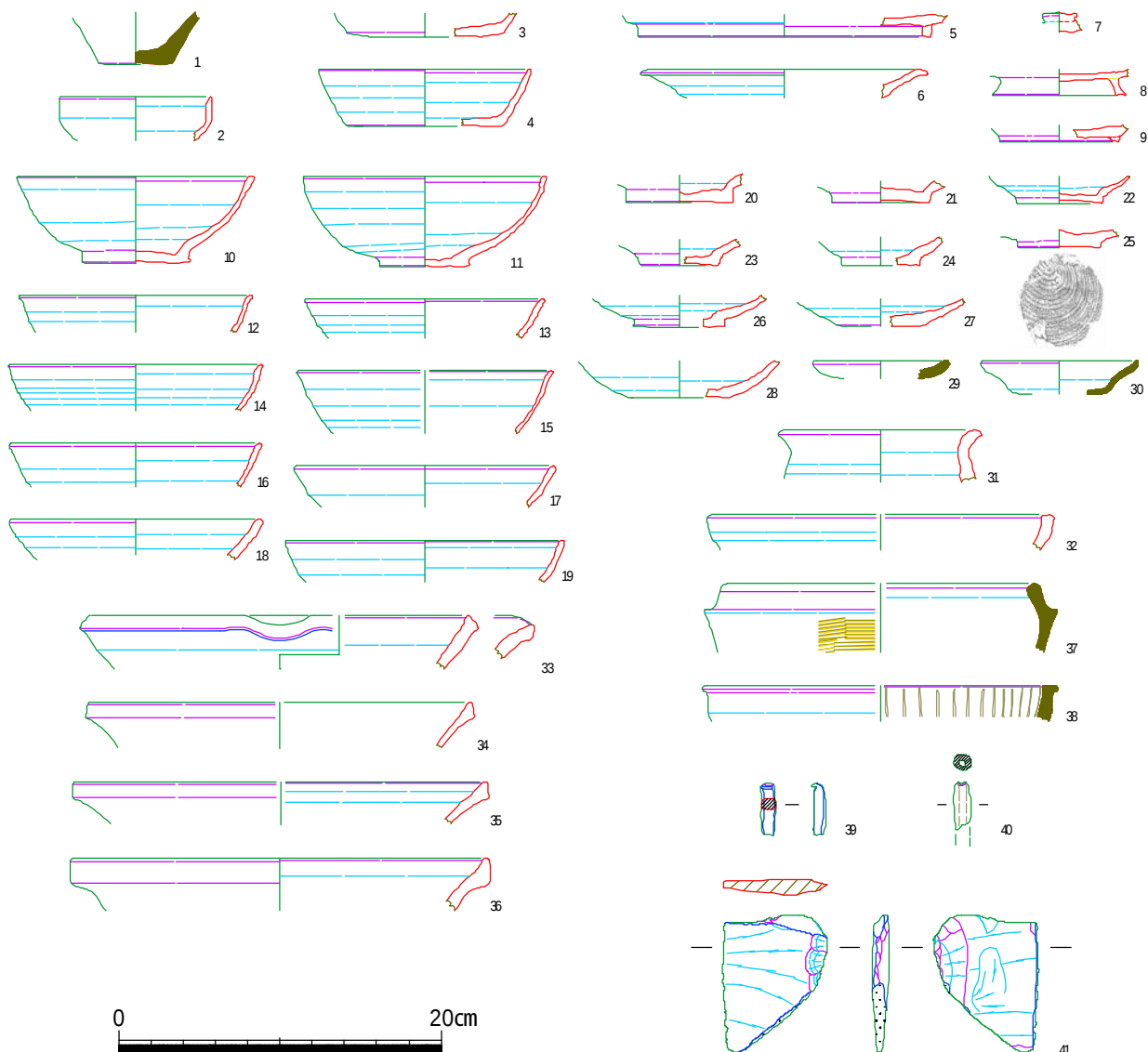
前者の器種構成は椀が約 8 割を占め、ほかに甕や鉢等がある。当地方には 7 世紀から 12 世紀にかけて営まれた東播北部古窯址群が知られ、特に 10 世紀以降生産拡大が周知されている。椀は全形のわかるものは 2 点（10・11）のみであるため編年的作業をおこなうにあたっては特に底部片によりすすめた。その結果、10 世紀中頃～11 世紀代と思われるものが約 10 片（10・11・20～24）、12 世紀～後半が約 10～15 片（25・26）、12 世紀末以降が約 25 片（27・28）である。（33～36）のような片口鉢については破片数は約 10 片みられるが東播北部古窯址群では出土例が無く、神出古窯址群あるいは魚住古窯址群に生産がみられるものである。形態からおおむね 13 世紀代の所産と思われる。椀ないし片口鉢などは 12 世紀後葉から 13 世紀に属する土器片がやや優位であることが観察できる。

次に、少数みられる古代に属する遺物についてみる。（2）は蓋坏の蓋を坏とした器形で、口径 8.8cm と小さいことから坂田寺 SG100 併行期といえ、時期はおおむね 7 世紀中葉頃にあたる遺物と考えられ、YY32 号窯など同時期かと思われる窯跡が検出されている。（3～9）は 8 世紀後葉から 9 世紀前半に属する遺物かと思われる。（3・4）の坏の底部は篋切りのままで両者とも火襴痕を残す。（5）は皿の底部に輪高台を貼り付けた器種で底部は回転篋削りをおこない胎土は精密で丁寧な整形を印象としている。（6）は輪高台の付く皿と思われるが当地域の窯跡及び消費遺跡においても出土例がほとんど無く、小破片でもあり皿とするか蓋とするか決しがたいが、いわゆる瓷器系皿が想定できる形状かとも考えられる。（8）は底部が篋切りであることから札馬窯跡群（加古川市）36 号窯・41 号窯などにみられる台付き皿の可能性も想定出来よう。（9）は札馬窯跡群 47 号窯などつまみの無い蓋などとともに出土する坏で平高台椀出現前の時期が考えられる。他に肩部に沈線を施した台付きになるであろう長頸壺の部分片もみられる。

土師器 皿・土釜・土埴になるであろう土器片が大半である。皿（29・30）坏類は手捏ね成形である。土埴（37）は陶器風の焼き上がりを呈し、外面鐳部の下半に叩きを施すものである。播鉢（38）も土埴同様陶器風に焼き上がったもので、内面に幅約 3～4 mm の擣り目を 1.2～1.5 cm 程度の間隔で刻んでいる。時期はおおむね須恵器の糸切り椀や片口鉢等と併行するものであろう。

その他 弥生時代中期後半頃に属する櫛描き直線文を刻む土器片が少量みられる。

以上、土器類はその大半が平安後期以降に属するもので特に12世紀末以降に中心が求められ、中世的な印象の遺跡が想像できる構成といえよう。



出土遺物実測図

鉄製品

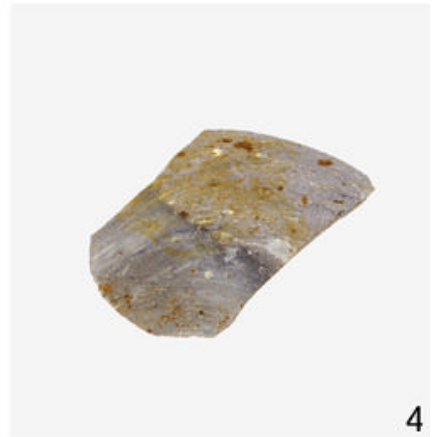
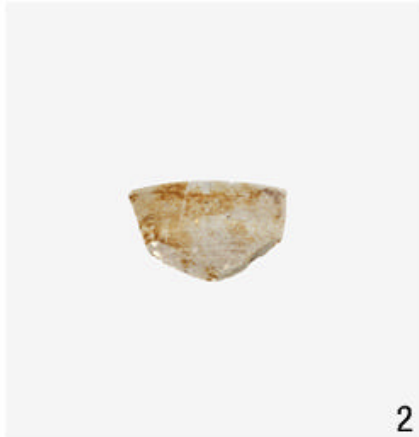
釘（39）は脚部を欠し腐食も進んでいるため本来の姿を推定することは困難であるが、重さ3.67g、残存長は約3.2cmで、基部の断面は厚み約0.8cmの正方形であることが観察でき、頭の形状からは頭巻類の和釘と思われる。

土製品

土錘（40）は残存長約3.5cm、径約1.2cm、重さ2.83gで胴部にふくらみを持つ土師質の管状土錘である。端部は成形のままであり、色調は褐灰色でやや軟質な焼き上がりを呈している。

石製品

サヌカイト片 (41) 8.5×6.5cm、厚み約1.0cmのサヌカイトの剥片で重さ28gを量る郡内出土のなかでは最大級のものである。時期は先述の弥生土器片と同時期の中期後半が考えられる。なお、近隣地域では弥生時代中期頃から古墳時代にかけての集落跡が検出された垂井遺跡(小野市)で、弥生期の溝から20×17cm、厚さ2.5cmのサヌカイトの大型割片の出土例がみられる。





まとめ

遺構は浅い溝2条とピット数基が散見する程度である。SD-01はN-25°-E方向に築かれているが、規則性をもったかたちで築かれたものであるのかは明らかではなく、周辺部の調査に期待したい。

遺構からの出土遺物はSD-01で糸切り底の椀と捏鉢の破片が2点みられるだけである。大半の遺物が包含層からの出土で、弥生土器片や律令期の須恵器片を少量確認するものの、その9割近くが平安時代後半～鎌倉時代頃のものである。特に12世紀後葉から13世紀にかけての時期に中心が求められる土器様相がみられることから、当遺跡の西に所在する11世紀後半から12世紀とされる下ノ山遺跡に続く中世の遺跡の存在を想定できよう。

小川真理子

参考・引用文献

- 岸本一郎 「東播磨」『須恵器の編年とその時代』季刊考古学第42号 1993
- 岸本一郎・森下大輔 「東播北部古窯址群の基礎資料」『播磨考古学論叢』1990
- 岸本直文 「第二章 小野市の考古資料」『小野市史 第四巻 史料編』1997
- 中村浩 『札幌古窯跡群発掘調査報告書』1982
- 中村浩 『社・牧野』1990
- 金箱文夫 「近世の釘—川口市赤山陣屋跡の事例を中心に—」

出土遺物観察一覧表

番号	調査区	遺構名	計測値(cm)			焼成	外面色調	外面色調	内面色調	内面色調	砂粒		調整	種別	器種	器形	備考	残存
			口径	器高	底径						径(mm)	数(cm ²)						
01	3			<u>3.2</u>	4.4	良	7.5YR7/2	明褐灰色	7.5YR7/2	明褐灰色	2	2		弥生土器			2～4mm程度の石粒多く含む	40
02	3		9.2	<u>2.7</u>		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	0.5	4	ヨコナデ	須恵器	坏			25
03	3			<u>1.4</u>	9.8	良好	N8	灰白色	N8	灰白色	1	5	外面 - ヨコナデ 底部回転ヘラ切り	須恵器	坏	A	内外面とも火ダスキ痕	40
04	2		15.8	3.5		良好	N6	灰色	N6	灰色	1	3	外面 - ヨコナデ 底部回転ヘラ切り	須恵器	坏	A		20
05	3			<u>1.3</u>	17.8	良好	2.5Y8/2	灰白色	2.5Y8/2	灰白色	0.5	4	外面 - 底部回転ヘラ切り	須恵器	皿	B	底部のみ残存	20
06	3		16.6	<u>1.8</u>		良好	7.5YR7/1	明褐灰色	7.5YR7/1	明褐灰色	0.5	3	ヨコナデ	須恵器	皿?		口縁部のみ残存	25
07	3			<u>1.2</u>		良好	N8	灰白色	N8	灰白色	0.5	2	ヨコナデ	須恵器	蓋		つまみ部のみ残存	-
08	3			<u>1.5</u>	8.2	良好	N7	灰白色	N8	灰白色	1	4	外面 - 底部ヘラ切り	須恵器	坏	B	底部のみ残存	40
09	3			<u>1</u>	7.2	良好	10GY5/1	緑灰色	2.5GY6/1	オリーブ灰色	0.5	3	外面 - 底部回転ヘラ切り	須恵器	坏	B	底部のみ残存	30
10	3	SD-01	14.2	5.4	6.6	良好	N6	灰色	N6	灰色	0.5	3	外面 - ヨコナデ 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗		30
11	2		14.8	5.6	5.6	良好	N5	灰色	N5	灰色	0.5	4	外面 - ヨコナデ 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗		30
12	3		14.4	<u>2.3</u>		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	0.5	3	ヨコナデ	須恵器	椀	山茶碗	口縁部のみ残存	20
13	3		14.6	<u>2.4</u>		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	0.5	4	ヨコナデ	須恵器	椀	山茶碗	口縁部のみ残存	20
14	3		15.5	<u>2.8</u>		良好	N8	灰白色	N8	灰白色	0.5	3	ヨコナデ	須恵器	椀	山茶碗	口縁部のみ残存	25
15	3		<u>15.6</u>	<u>3.9</u>		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	0.5	4	ヨコナデ	須恵器	椀	山茶碗	口縁部のみ残存	15
16	3		15.4	<u>2.7</u>		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	1	4	ヨコナデ	須恵器	椀	山茶碗	口縁部のみ残存	30
17	3		16	<u>2.6</u>		良好	N5	灰色	N5	灰色	0.5	3	ヨコナデ	須恵器	椀	山茶碗	口縁部のみ残存	20
18	3		15.4	<u>2.5</u>		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	1	4	ヨコナデ	須恵器	椀	山茶碗	口縁部のみ残存	20
19	3		17.1	<u>2.6</u>		良好	N6	灰色	2.5Y6/1	黄灰色	1	4	ヨコナデ	須恵器	椀	山茶碗	口縁部のみ残存	20
20	3			<u>1.7</u>	6.6	良好	N7	灰白色	N7	灰白色	1	4	外面 - 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗	底部のみ残存	30
21	3			<u>1.3</u>	6	良好	N8	灰白色	N8	灰白色	0.5	4	外面 - 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗	底部のみ残存	-

番号	調査区	遺構名	計測値(cm)			焼成	外面色調	外面色調	内面色調	内面色調	砂粒		調整	種別	器種	器形	備考	残存
			口径	器高	底径						径(mm)	砂粒数						
22	3			<u>1.7</u>	5.2	良好	N7	灰白色	N7	灰白色	0.5	4	外面 - ヨコナデ 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗	口縁端部なし	20
23	3			<u>1.6</u>	4.8	良好	N8	灰白色	N8	灰白色	0.5	4	外面 - ヨコナデ 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗	底部くのみ残存	-
24	3			<u>1.8</u>	4.8	良好	N8	灰白色	N8	灰白色	1	4	外面 - ヨコナデ 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗	口縁端部なし	30
25	3			<u>1.1</u>	5.1	良好	10GY6/1	緑灰色	10GY6/1	緑灰色	1	5	外面 - ヨコナデ 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗	底部のみ残存	-
26	3			<u>1.9</u>	5.6	良好	N6	灰色	N6	灰色	1	4	外面 - ヨコナデ 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗	口縁端部なし	25
27	3			<u>1.8</u>	5.5	良好	N7	灰白色	N7	灰白色	0.5	4	外面 - ヨコナデ 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗		20
28	3			<u>2.3</u>	6.4	良好	N7	灰白色	N 7	灰白色	0.5	4	外面 - 底部回転系切り	須恵器	椀	山茶碗	口縁端部なし	30
29	3		8.1	1.1		良	7.5YR7/6	橙色	7.5YR7/4	にぶい橙色	0.5	4	ナデ	土師器	小皿			25
30	3		9.5	2.1		良	2.5Y8/3	淡黄色	2.5Y8/3	淡黄色	1	7	ヨコナデ	土師器	皿			20
31	3		11.8	<u>3.3</u>		良好	N4	灰色	N7	灰白色	0.5	3	ヨコナデ	須恵器	壺?			10
32	3		<u>21.5</u>	<u>2.1</u>		良好	N6	灰色	N6	灰色	0.5	4	ヨコナデ	須恵器			口縁部端部ちかくのみ残存	20
33	3		<u>23.2</u>	<u>3.3</u>		良好	5P5/1	紫灰色	5P5/1	紫灰色	1	5	ヨコナデ	須恵器	捏鉢		片口	20
34	3		<u>23.5</u>	<u>2.8</u>		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	1	5	ヨコナデ	須恵器	捏鉢		口縁部のみ残存 口縁端部自然釉付着	20
35	3		<u>25.5</u>	<u>2.6</u>		良好	N5	灰色	N5	灰色	1	4	ヨコナデ	須恵器	捏鉢		口縁部のみ残存	20
36	3		22.6	3.2		良好	N7	灰白色	N7	灰白色	1	4	ヨコナデ	須恵器	捏鉢		口縁端部ちかくのみ残存	20
37	2		<u>19.2</u>	<u>4.2</u>		良好	7.5YR4/2	灰褐色	5YR6/4	にぶい橙色	0.5	3	外面 - 胴部タタキ 口縁部ヨコナデ	土師質	土釜			10
38	3		<u>21.6</u>	<u>2.2</u>		良好	7.5YR7/1	明褐灰色	7.5YR7/4	にぶい橙色	1	7	ヨコナデ ヘラ状工具による掘目	土師器	播鉢		口縁端部ちかくのみ残存	20
39	3												現存長32mm 幅9mm 厚さ6mm 現重量3.67 g	鉄製品	釘			80
40	3					不良	10YR6/1	褐灰色			0.5	4	現存長30mm 径11-9mm 穿孔径4mm 現重量2.83 g	土製品	土錘			70
41	3												長さ8.6cm 幅6.3cm 厚さ1.0cm 重量65.28g	石製品	石材	サヌカイト		100

この部分にリンクがあります

計測値のアンダ - ラインは推定値を表しています